

[成果情報名] 樹勢が強い「青島温州」に適したわい性台木の開発

[要 約] 「青島温州」のわい性台木として、ヒリュウとカラタチ小葉系 B は有望である。カラタチ小葉系 B はカラタチとヒリュウの中間的な木の大きさを示し、また、ヒリュウは糖度がカラタチよりも 0.6 度高い。

[キーワード] ウンシュウミカン、台木、生育、収量、果実品質

[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ（旧柑試）

[連絡先] 電話 054-334-4853、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

-----  
[背景・ねらい]

日本では、カンキツ類の台木にはほとんどカラタチが用いられているが、静岡県の実験圃場の代表的な品種である「青島温州」は樹勢が強く、作業の省力化、軽労働化の観点から、カラタチよりもわい性の台木が必要とされている。そこで、カラタチ類の台木を用い、「青島温州」に対する生育や収量、果実品質に及ぼす影響を調査することにより、台木としての実用性を評価する。

[成果の内容・特徴]

- 1．木の大きさはヒリュウ、カラタチ小葉系 B、カラタチの順に大きかった（図 1）。
- 2．1 樹当たりの収量はヒリュウとカラタチ小葉系 B がカラタチよりも少なく、樹冠占有面積当たりでは 3 つの台木がほぼ同等であった（図 2）。
- 3．糖度はヒリュウが高かったが、クエン酸と着色歩合は 3 つの台木がほぼ同じであった（表 1）。
- 4．ヒリュウとカラタチ小葉系 B は、樹冠占有面積当たりの収量と果実品質がカラタチと同等で、カラタチよりもわい性を示すため、わい性台木として有望である。

[成果の活用面・留意点]

- 1．園地の土壌条件により、耕土が深い場所ではヒリュウ台木を、耕土がやや深い場所ではカラタチ小葉系 B を、耕土が浅い場所では既存のカラタチ台木を選択する。
- 2．ヒリュウ台木は定植後 2 年間については全摘果し、樹冠の拡大を促す。
- 3．ヒリュウ台木は、倒伏しやすいため幼木時に支柱で固定する。
- 4．カラタチ小葉系 B は結実しにくいいため、繁殖方法を検討する必要がある。

[具体的データ]

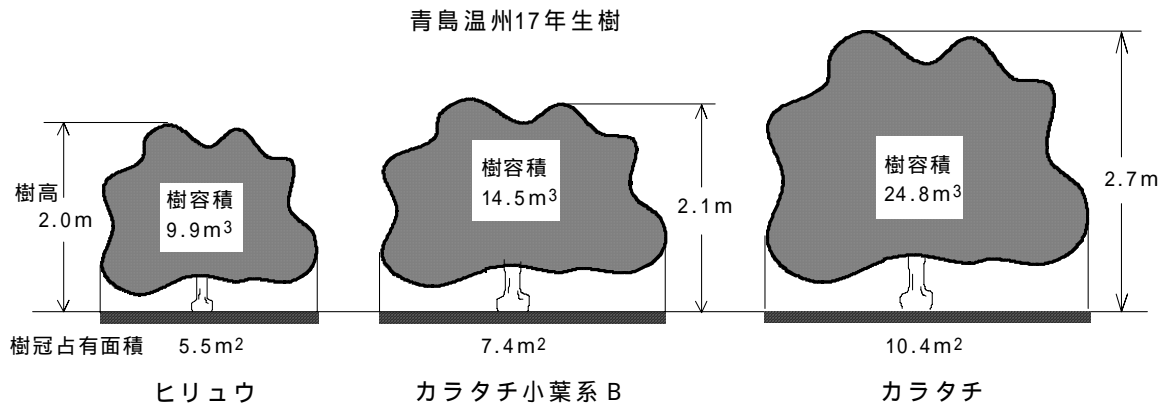


図1 台木による生育の比較

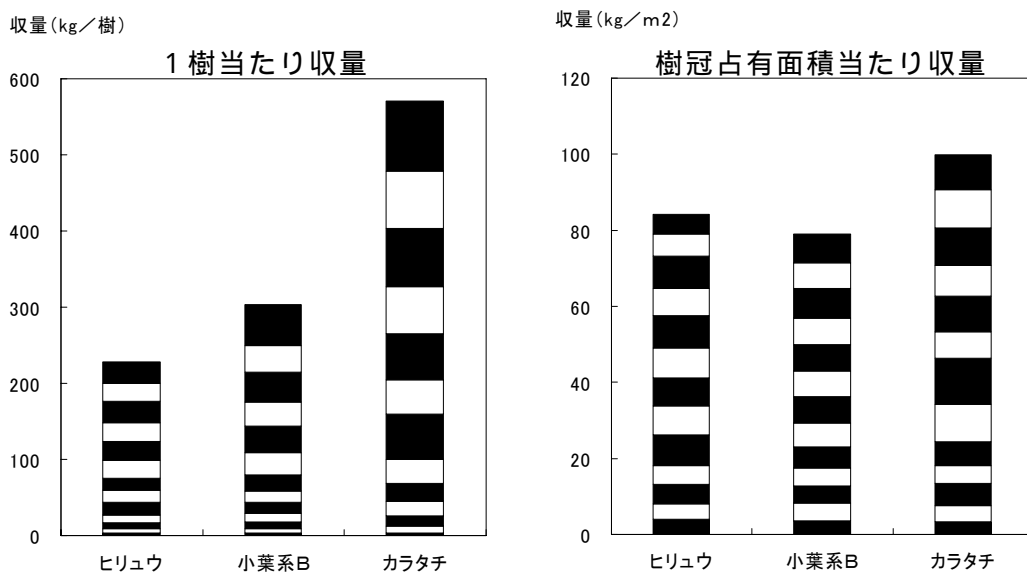


図2 台木による累積収量の比較

棒の各ブロックは5年生樹(最下段)から17年生樹(最上段)の値

表1 「青島温州」の果実品質の比較(13年間の平均値)

台木名	糖度	クエン酸(%)	着色歩合(分)
ヒリュウ	10.3	0.79	9.2
カラタチ小葉系 B	9.7	0.80	8.7
カラタチ	9.7	0.79	8.6

[その他]

研究課題名：省力化安定生産に適した台木品種の開発

予算区分：県単

研究期間：2003～2007年度

研究担当者：澤野郁夫・伏見典晃・羽生 充・小林康志・中嶋輝子

発表論文等：静岡柑試研報，33：7-10、園芸学会雑誌，第70巻別2：242.